

社会教育士の活用に向けた愛知県教育委員会の取組について

1 これまでの検討

- 令和5年度第2回 愛知県生涯学習審議会（令和6年3月21日開催）
 - ・ 生涯学習、社会教育の振興のためには、社会教育士がより一層活躍できる環境を、行政が作っていくことが必要。
 - ・ 行政が社会教育士を把握する仕組みが必要。
 - ・ 登録制度のような、行政が登録者の中から選んで依頼する仕組みが必要。
- 令和6年度第1回 愛知県生涯学習審議会（令和6年10月14日開催）
 - ・ 市町村に対する調査の結果、社会教育士に対する期待はあるが、活用できている状況ではない。
 - ・ 市町村が活用できるようにするためにも、名簿の作成が必要。
 - ・ 社会教育士の活動状況や今後についての希望を把握するため、調査を実施。

2 社会教育士への調査結果の概要

- ・ 回答者は社会教育主事講習受講者のみ 59人が回答
- ・ 社会教育士の称号等を活かした活動ができていない人は53%
- ・ 今後、講習等で得た知識や称号を活かした活動を予定している人は36%、機会があれば活動したい人が54%、将来的に活動したい人は5%
- ・ あったら良いと思う支援として、以下の回答があった

- 活躍の場の紹介やサポート
- 社会教育士の資格を広く一般的にも知ってもらえるような仕組み
- 社会教育士同士の交流の機会

3 調査結果を受けての対応（案）

- 社会教育士称号取得者の把握

大学の教育課程（社会教育士養成課程）での称号取得者について、現状では連絡する手段がない。（大学における個人情報の取扱い）

活動や交流、研修の情報提供や、市町村が社会教育士の活用を進めるためにも、基盤として連絡先や活動分野等の情報を把握することが必要となる。



次の方法により、称号取得者を把握する。

- ・ 社会教育士養成課程受講者・・・大学卒業後は、連絡が取れなくなることから、称号取得時に情報登録に関するチラシを配布することを各大学に依頼する。（登録は氏名とメールアドレスのみ）
- ・ 社会教育主事講習修了者・・・受講者へチラシを配布する。

○ 社会教育士の活動紹介

社会教育士として活動したい意欲があっても、活動できる場についての情報がない。活動機会を増やすためにも、社会教育士の活動を知ってもらう機会を増やす必要がある。



愛知県生涯学習推進センターが発行している情報誌「まなびいあいち」の誌面、「学びネットあいち」のホームページにおいて、社会教育士の活動を取り上げるコラムを掲載するなど、社会教育士に関する情報を発信する。

○ 社会教育士同士の交流の機会の確保

称号取得後に交流の機会がなく、社会教育士が能力を発揮し企画立案を行うきっかけが少ない。



愛知県生涯学習推進センター等を活用して交流の場を設定する。

【参考】

- 社会教育士養成課程：大学の教育課程の中で、社会教育士の称号取得のための単位を取得する。
県内では、5つの大学で課程が設置されている。
・ 課程設置大学：愛知教育大学、名古屋大学、愛知大学、愛知学院大学、中京大学
※R2～R5年度の称号取得者数（累計）：186人

- 社会教育主事講習：大学等を卒業した者が受講し、称号を取得するための講習。社会教育士の制度開始以前から実施されており、現在の受講者には、自治体において社会教育主事の職に就くことを前提とした者が多い。
東海4県の4つの大学（愛知教育大学、岐阜大学、三重大学、静岡大学）がローテーションで講座を開催している。
※R2～R5年度の称号取得者数（累計）：129人